

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1175100799		
法人名	株式会社 アイム		
事業所名	グループホーム 健康倶楽部新座		
所在地	埼玉県新座市中野1-5-5		
自己評価作成日	令和4年2月20日	評価結果市町村受理日	令和4年4月19

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.mhl.w.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号
訪問調査日	令和4年3月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員は、利用者様の尊厳の維持に努め、利用者様に寄り添い、利用者様それぞれが『生きがいを持って生活が出来る様に』介護に向かっています。職員各自が、真摯に利用者様と向き合う事で、利用者様にとって『今、何が必要なのか』を考える事が出来る人材育成に力を入れています。施設内研修は、コロナ禍の為にオンライン研修を実施しております。研修の意義は、介護従事者として介護に対する意識や認識を再確認する為に取り組んでいます。介護は、『人と人とのつながりが、大切な仕事』です。施設として、これからも大事にして、特に力を入れるべき事は、介護に向き合う心を持った職員の育成だと考えます。職員が『健全な精神で介護に向き合う気持ち』を維持する事は大変ですが、職員一同で協力しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・管理者を始め職員の優しい思いやりのもと、利用者一人ひとりに寄り添い、きめ細かな支援に取り組む、利用者の健やかで穏やかな暮らしに結び付けられている。
- ・運営推進会議は、コロナ禍で対面での開催が困難となる中、事業所や利用者の状況を書面にまとめ、会議のメンバーに届けて意見等を伺い、会議の代替とされている。
- ・目標達成計画は、少人数ではあるが、利用者の希望に沿い、買い物や飲食に出かけられるほか、事業所周辺での散歩や屋上での外気浴、家族の協力を得ての外出などが行なわれ、気分転換やストレス発散の機会を多く持つよう支援をされていることから、目標達成への取り組みが伺える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	企業理念である「あなたに寄り添います。」を実践して、利用者様個々の尊厳を大切に考えて、介護に向き合っています。	「あなたに寄り添います」という理念のもと、利用者とのコミュニケーションと信頼関係を大切に、寄り添い、その人らしく過ごされるようチームケアに取り組まれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の為、2020年3月より自粛しています。	自治会加入やボランティアの導入、学生や地域住民との交流など、利用者が地域とつながりながら暮らせるよう基盤整備に努められている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	書面形式で運営推進会議を、年6回実施。地域の方へ施設の活動状況を報告しています。又、町会及び他施設の方、市役所からの情報も共有しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	書面にて、利用者様の日中のご様子や生活状況を報告しています。意見交換で、施設として取り組める事を意識して、サービスの向上を図っております。	運営委推進会議は、書面報告になるが、事業所から利用者の暮らし振りや活動を報告され、評価や意見・要望、地域の情報提供をいただくなど、幅広い内容での意見交換が行われ、事業所運営やサービスに活かされている。	
	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	書面形式で運営会議報告書をまとめております。市役所職員、町会、地域包括の職員に、ご家族様代表に施設の取り組みや今後の課題をお話して、意見及びご指導を頂いております。	行政の担当や地域包括支援センターとは密に連携を図り、事業所の取り組み状況を説明し、相談や情報の共有等が行われている。また、感染防止用の消毒液・マスク・手袋の配布を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者様への身体拘束は、しておりません。施設として、身体拘束及び虐待行為に対する研修を通して、介護従事者への認識及び理解を深めております。	法人内研修や身体拘束廃止委員会が定期的に行われ、全職員が身体拘束の内容とその弊害を認識し、言葉での拘束を含め、行動の抑制をしないケアに取り組まれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	上記にも記載しましたが、高齢者虐待防止について、オンライン形式で勉強会を実施しています。又、理解が不足している職員へは、指導を徹底しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員の知識向上を図る為、職員が学びたいテーマを優先して、講師を呼び資料を基に勉強会を実施しています。又、研修実施記録を提出してもらう事で、理解を深めております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族様へは、感染症予防対策をして重要事項説明書を管理者が読みながら説明をしています。その際、不明な点は、質問をして頂き、ご理解頂ける様に努力しております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	書面形式の運営会議には、ご家族様代表も協力を頂いております。ご家族様の目線で、施設に対しての要望をお聞きして、施設としての取り組み方の指針としております。	利用者とは日々の関わりの中でコミュニケーションを深め。家族とは来訪が制限される中、面会や電話連絡時に意見・要望を聞き取り、職員間で話し合い、事業所運営やサービスに活かされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各フロアごとの会議において、管理者およびリーダー、職員の意見交換を行っております。健全化を図り、提案事項は、検討して反映させております。	定例会議や個別面談などで意見・提案を聴きとられている。発言しやすい職場環境が生まれ、レクリエーション企画や個別ケア対策など、具現化されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課シートを元に、管理者及びリーダーが評価をしております。個人面談を実施して、仕事に対する意欲の向上を図っております。課題については、代表へ報告しております。リモート面談実施しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設として、職員の自己啓発を尊重する形で、対応しています。コロナ禍の為、昨年は、管理者候補への実践者研修が出来ませんでした。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の為、同業者との勉強会は出来ませんでした。今後は、リモート参加型の研修も視野に入れて、対応を考えております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居前に、実地調査を行い、ご家族様からの利用者様本人の生活履歴をお聞きして問題・課題・要望をお聞きしております。ご家族様の不安材料を軽減出来る様に、努力しております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学を通じて、ご家族様から入居前の要望をお聞きして、施設援助計画書・個別援助計画書に反映出来る様に努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様は、要望・不安材料に優先順位を設定して、サービスの向上を図っております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の尊厳の維持を大事にして、利用者様の声(不安)に耳を傾けて、対応を心掛けております。職員は、利用者様が困っている様子を察知して、信頼関係を深める努力をしております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様が、施設へ来られた際に、会話の中から、利用者様の要望を察知して、現時点で実践で出来る事を行っております。又、そうした思いをご家族様と共有出来る様に、努めております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の為、面会制限をしていました。スマホ動画撮影や電話対応などで努力しております。リモート対応が出来る方へは、協力する考えです。	面会や外出が制限される中、利用者の希望に沿い、個別にスーパーやコーヒーショップなどに出かけるなど、感染対策を施して、馴染みの関係継続に努められている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様各自が、他者に対しても共感出来るように、職員がリクレーション等を通じて、仲間意識を持って頂ける様に、努力しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者様の健康状態やご家族様の都合により退居になった場合でも、ご家族様とのご縁を大事に考えて対応しております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の性格や大切にしている思いを理解して、声掛け・傾聴に努めております。又、職員の気づきや意見も尊重できるように、個別援助計画書に反映させています。	利用者一人ひとりとのコミュニケーションと信頼関係を大切に寄り添うことで、思いや意向を把握している。困難な利用者についても、表情や仕草から汲み取り、利用者本位に検討をされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様の生活歴や日常生活動作を考慮して、生活環境を整備しています。ハザードを取り除き、リスクを軽減しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員一人一人の『気づき』の中から、その日の健康状態で注視する事を、申し送りを通して共有しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	チームケアにより、ADLの低下で、転倒リスクが上がった利用者様や睡眠が不足傾向の利用者様に対して、今すべき事、今後取り組むべき事を介護計画書に反映させています。	利用者・家族から思いや意向を聴きとり、医師・看護師からの指示を含め、職員の意見やアイデアを活かし、その人らしさを大切に、現状に即した介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌・ケア記録を確認する事で、ケアの実践を検討して、見直すべき点は、改善しております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別援助計画書をまとめる上で、ご家族様の要望を組み込み、柔軟な対応が出来る様に努力しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアによる音楽会の鑑賞をする。跡見女子大学の校内散歩で花見見物をする。平林寺の紅葉鑑賞をする。2020年よりコロナ禍の為、実施出来ていません。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様のご家族からの同意を頂き、施設と連携する訪問内科の医師に、隔週金曜日に診察があります。主治医の診断や家族の要望を元に、医療連携をしています。	入居時に利用者や家族の希望を尊重し、医療機関の選択をしていただいている。専門医等かかりつけ医の受診は家族対応を基本とし、必要な情報提供を行ない、適切な診療が行なえるよう支援をされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の方には、利用者様のご様子の観察してもらいます。又、入浴後の爪切り・日中のバイタルを計測してもらい、特変があれば職員への指示をお願いして、医療連携を行います。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様のご家族へは、容態が理解出来る様に、説明を行っております。医療連携をする上で、診療情報提供書や看護サマリーを活用しております。入院・退院の報告は理解頂ける様に、対応しています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期におけるご家族様の考えは、入居時に確認しておりますが、その時になってみないと判断が出来ない事もあるので、医師からの医療情報を元に、話し合う努力をしております。	利用者の症状に合わせ、重度化・終末期についての話し合いが持たれ、利用者・家族と意思統一を図られている。その後も意思確認を進めながら、医師・看護師との連携のもと、希望に沿った最大限のケアに向け取り組まれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日中や夜間帯を通して、主治医の指示を頂ける様に、医療連携をしています。緊急時の対応についても、会議で話し合っております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は年に2回実施しています。消防設備の点検は、年に2回実施しています。その他、避難誘導灯やスプリンクラー等の建築設備点検も法令通り実施しています。	消防署の立会いを含む年2回の防災訓練が行われ、災害種別のマニュアルや行動フローが作成され、ハザードマップの確認も行われるほか、食料備蓄や防災用品・備品の整備に取り組まれている。	災害対策には十分取り組まれています。今期、新任職員の採用があったことから、災害時の組織対応力の維持向上に向けた継続的な取り組みに期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の立場になって、介護をしています。特に、排泄や入浴の場面では、心配りをしています。	排泄介助時にはドアを閉じ、利用者同士の争いが起きれば、速やかに守りに入るなど、利用者の人格を尊重した対応、排泄や入浴時の羞恥心に対する配慮など、きめ細かな対応がとられている	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の気持ちを尊重して、声掛け・傾聴をしています。その日の体調やご気分を考慮して対応しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様各自の生活リズムを尊重して、出来る限り希望に合わせた介護が出来る様に努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様本人が、出来る事を奪わずに、声掛けや一部介助をしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	感染経路の明確化を考えて、食事の準備をお手伝い頂く事が難しくなりましたが、食器洗い等の片づけは、お手伝い頂ける方が居るので、頼むことがあります。	限定されるが、利用者個々の力に合わせ、食事の準備や後片付けなどを職員と共に行っている。マグロ解体ショーや催事には鰻や寿司が提供されるほか、彩り豊かな美味しい食事が提供されるなど、食の楽しみを大切にした支援が行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様各自の嚥下の状態を考慮して、食事形態を考え、対応しています。水分・食事は記録して、栄養が不足しない様に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	隔週木曜日に訪問歯科の口腔ケアがあります。食後のうがいや歯磨きは、声掛けして努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	現状は、車椅子対応の利用者様や歩行時に転倒リスクがある方が多い為、排泄介助が必要ですが、ご自身で出来る事は、見守り対応で実施しています。	一人ひとりの力や排泄パターン・習慣を把握し、定期的にトイレ誘導を行い、できる限りトイレで排泄して頂けるよう努められている。また、就寝時も睡眠を妨げないように努め、良い眠りと排泄用品の削減に努められている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腸内環境を考え、毎朝ヨーグルトを食べて頂いています。便秘がちの方は、良く噛んで頂く様に、声掛けして対応しています。又、日中に牛乳を飲んで頂くなど考慮しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	清潔を維持する為に、最終入浴日から3日を目途として、入浴をさせて頂きます。バイタルチェックをして、問題があれば変更しています。声掛けして午前中の中の入浴に拒否があれば、午後に変更して対応しています。	週2回の入浴を基本とされているが、利用者の状態に合わせて融通を利かせた入浴が支援され、拒否の方に対しては、タイミングや担当を変えるなどの工夫をされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の体調やご気分を尊重して、就寝介助をしています。眠剤を服用される方は、眠剤を飲んで頂く時間を考えて、対応しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	隔週来て頂いているDr.往診後の服薬セット時に、薬局の担当者から副作用等の知識を聞き、薬情変更について、経緯・理由・服用中止の場合の注意事項をフロア共有しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の出来る事や楽しみにしている事を行っています。集団レクなどは、コロナ禍の為、密は避けていますが、利用者様の体調を第一に考えて、気分転換出来る様に努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、外出行事は中止継続中です。利用者様への配慮として、1人から2人の買物レクで気分転換して頂ける様に、努めています。	コロナ禍の中、少人数ではあるが、利用者の希望に沿い、買い物に出かけられるほか、事業所周辺での散歩や屋上での外気浴、家族の協力を得ての外出など、気分転換やストレス発散の機会を多く持つよう支援をされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現状は、ご家族様から預かったお金は、職員が管理しています。毎月のご家族様へ明細書を提出していますが、買物レクでは、お預かりしたお金からご自分で払って頂く試みをする方もいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設として、毎月1回居室担当者が、ご家族様へ写真付きのお手紙を通して、利用者様の生活状況をお知らせしています。コロナ禍の為、電話対応やスマホ動画など努めています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアで共有するリビングには、大型加湿器を設置して感染予防をしています。又、共有スペースは特に清潔維持に努めています。掲示物には、利用者様と職員が作った物を掲示する様に努めています。	リビングには、桜やチューリップなどの壁飾りが飾られ、季節を感じていただくよう工夫をされている。また、調理する匂いや様々な生活音など、五感への刺激も大切にされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様各自の体調や気分を考えて、居室でゆっくりして頂く時間と、フロアでぬり絵やパズル等に、熱中して頂く時間の配慮をしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の居室はプライベートな空間なので、本人が安心出来る様に、入居時にご家族様と相談して対応しています。家族写真やお孫さんから頂いた絵などを掲示する事もあります。	馴染みの寝具、テレビや冷蔵庫などが持ち込まれ、利用者が気分良く、落ち着いて過ごされるよう工夫をされている。また、共用スペースを含め、掃除、換気や消毒を行うなど、清潔維持と感染症対策に取り組まれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の日常生活動作を考えて、認知力が低下している利用者様には、特に困惑しない様に、安全性を重視した住環境に努めています。		

(別紙4(2))

事業所名:健康倶楽部新座

作成日: 令和 4年 3月 29日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	火災や地震などの非常災害時の職員対応を考察して避難誘導・対応について不明瞭な点が改善できるように、目標を立案する。	①利用者様を迅速かつ安全に避難誘導できるように職員へ教育する。 ②マニュアルファイルと避難訓練(実践)を行う。	①新人職員に避難訓練に参加してもらい、災害時の避難経路、利用者様の避難誘導を実践してもらう。 ②職員に「非常災害対策計画の策定」ファイルをもとに学習してもらう。	3ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。